



「大連理工大学・立命館大学国際情報ソフトウェア学部」 の設置・運営について



2016年12月12日

立命館大学

日本におけるグローバルIT人材育成の背景

- 日本企業の海外拠点はもちろん、国内拠点においてもグローバル人材の採用を促進
- 組込み系、エンタープライズ系のグローバルIT人材の需要が増大
- グローバルIT人材の能力の明確化と、育成・評価の具体化への要求
- 中国、インド、タイ、ベトナムなど東アジア地域における大学と、日本の大学との間での人材育成の規模のギャップが拡大

グローバルマインドを持った高度IT人材育成 のための教育環境の構築へ向けて

● 本学部と海外大学との交流実績

- ハノイ工科大学
- 大連理工大学
- 東北大学(瀋陽)
- 泰日工業大学
- シンビオシス(インド)
- TUSUR (ロシア)

- アジア人財資金構想プログラム
- 短期留学受入プログラム
- 海外IT研修プログラム
- 学部・大学院相互派遣プログラム
- 教育・研究共同ワークショップ



- 次世代を担う若者が、自らのモチベーションに基づき、学びの環境を構築できるシステムを東アジア地域の大学・企業との産学協同で推進

立命館大学と大連理工大学の共同運営による IT系学部を設置

中国語名称:

大連理工大学—立命館大学国際信息与軟件学院

日本語名称:

大連理工大学・立命館大学国際情報ソフトウェア学部

英語名称:

DUT-RU International School of Information Science
and Engineering

大連理工大学について

設 立 : 1949年

所在地 : 中華人民共和国・遼寧省大連市

学生数 : 39,121名 (博士課程4,138名、修士課程10,672名、学部生23,606名、予科59名、外国人留学生646名)

特 徴 : 中国の教育部(文科省)直轄の国立大学。中国政府が重点整備する100大学計画「211工程」、および、世界一流の大学や国際的に知名度の高い研究型大学を重点整備する計画「985工程」の対象大学。理工系学部が特に評判が高い。



設置に至る経緯(概要)

・2009年10月

大連理工大学ソフトウェア学院の羅学院長等関係者が情報理工学部を訪問し構想説明。

・2010年3月

大連理工大学欧学長一行が本学を訪問し、川口総長に構想説明。

・2010年9月

大連で実施された情報理工学部と大連理工学部との共同ワークショップの後、大連理工大学より正式に検討と協力要請有り。

・2010年10月

本学より大連理工大学に書状にて関心表明を示し、本格的な協議が始まる。

・2011年5月

新学部の枠組みについて、基本合意に達した。詳細設計を開始した。

・2011年9月

大連理工大学より中国教育部に設置申請書を提出(1回目)。

設置に至る経緯(概要)つづき

- ・2012年4月
大連理工大学より中国教育部に設置申請書を提出(2回目)。
- ・2012年9月
大連理工大学開発区キャンパスにてパイロットクラス(30名)を開設。
- ・2012年12月
大連にて、中国教育部の専門家による設置審査会が開催される。
- ・2013年3月
認可。
- ・2014年3月
正式に開設。

大連理工大学・立命館大学国際情報ソフトウェア学部 の基本コンセプト

アジアに立脚したIT国際教育スタンダードの確立

IT分野におけるグローバル人材育成のための
教育モデルの開発

中国東北部をはじめとする東アジア地域での
教育研究拠点の形成

日系企業・中国企業と
立命館大学・大連理工大学による国際産学連携

大連理工大学・立命館大学国際情報ソフトウェア学部 の特色

日中共同で設置する初の国際的な学部

立命館大学情報理工学部と大連理工大学軟件学院が
共同で、大連理工大学の開発区キャンパスに設置

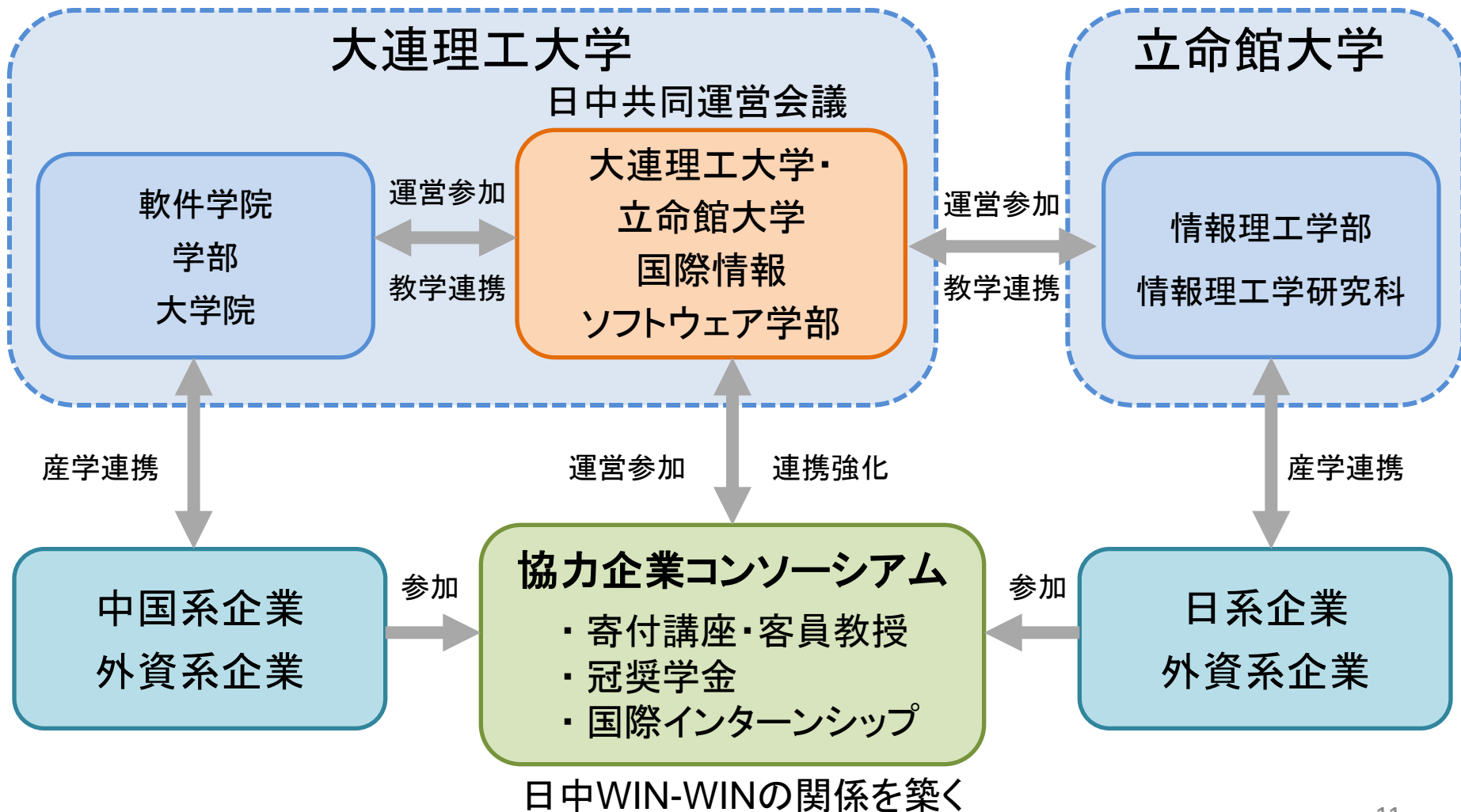
講義担当割合：大連理工 2/3 立命館 1/3

日本語教育：日本語能力試験N1レベルを目指す
専門科目：立命館大学教員が24科目を日本語で講義

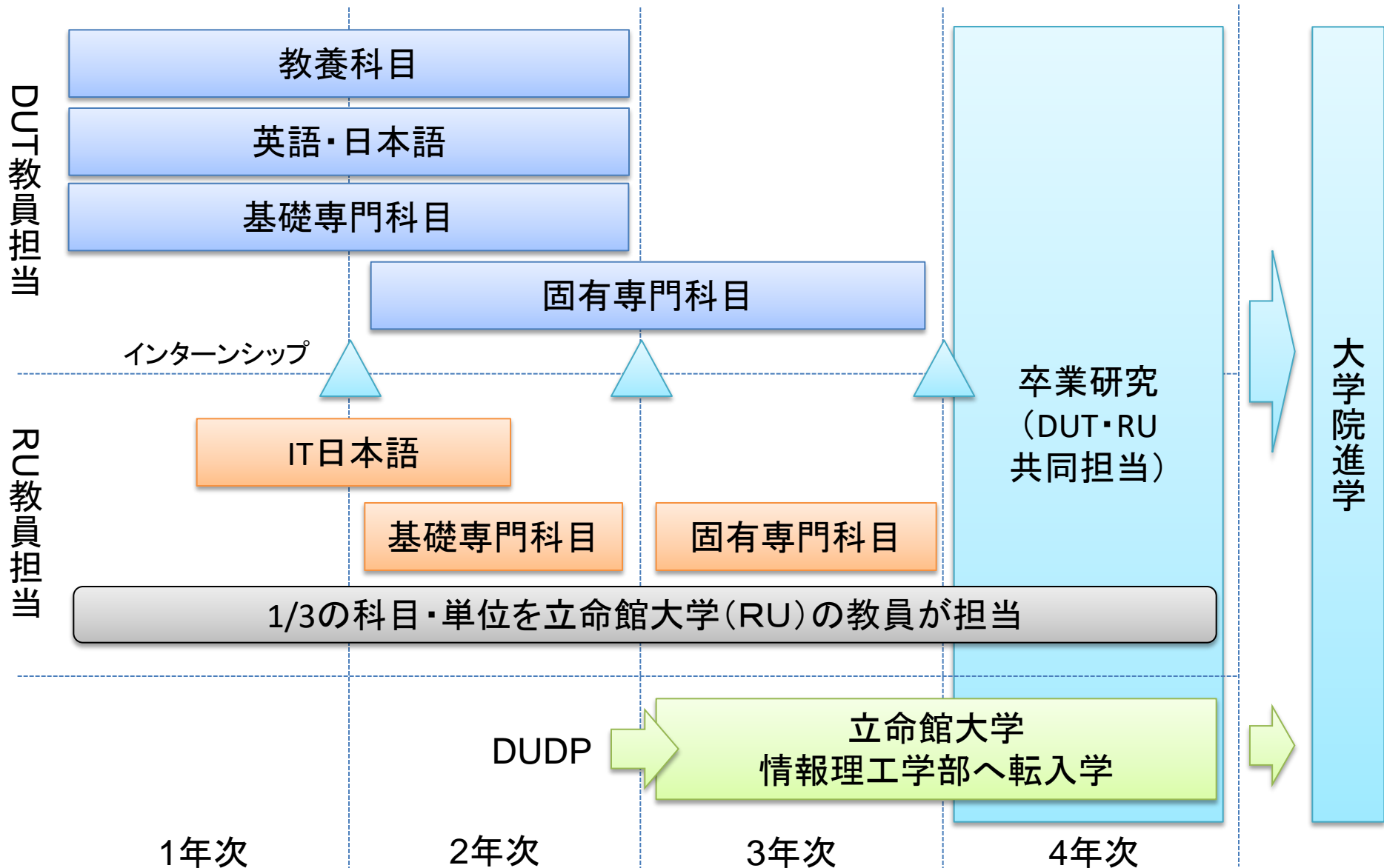
設置形態

- 設置場所： 中国大連市
- 学生定員： 100名（4年制、初期、将来300名）
- 学位：
 - － 定員の内4割の40名は、立命館大学に3年次転入し、立命館大学と大連理工大学のダブルディグリーを取得(DUDP)
 - － 残りの学生は、大連理工大学の学位を取得
- 設置申請： 中国教育部へ2012年9月
- 設置認可： 2013年3月
- 開設時期： 2014年9月

大連理工大学・立命館大学国際情報ソフトウェア学部 国際産学連携による運営スキーム



大連理工大学・立命館大学国際情報ソフトウェア学部のカリキュラムの概略



大連理工大学ソフトウェア学部における パイロットコースの状況

- 2012年9月に開講
- 実験コースには30名の中国人学生が所属
- 日本語、英語、数学、物理、C言語などを履修



数学の授業風景



日本語リスニングの授業風景

大連理工大学・立命館大学 国際情報ソフトウェア学部の状況

- 2014年度 学生数： 99名、4クラス編成
- 2015年度 学生数： 99名、4クラス編成
- 2016年度 学生数： 98名、4クラス編成(入学者100名、1名辞退、2名入学保留、2015年度休学者復学)



2014年9月9日1期生入学式



立命館大学で短期研修

大連理工大学・立命館大学国際情報ソフトウェア学部 における 人材育成目標と設置の意義

- 学生の相互派遣による国際化教育の展開
 - 学生の受け入れ： 安定的に優秀な留学生を確保するための新しい戦略的取り組みとしての位置付け
 - 学生の送り出し： 本学の学生・院生が海外で本格的な教育を受ける可能性の追求
 - 参加学生のメリット： グローバル人材に求められる能力の理解、モチベーションの向上、国際経験、異文化理解・交流
- 教育・研究の高度化と国際展開
 - 国際産学連携の基地化： 共同研究への寄与
 - 高等教育の国際展開： 日本の大学として海外で学部・大学院教育を本格的に展開するパイロットモデル

大連理工大学・立命館大学国際情報ソフトウェア学部

課題

- 学部独自の教員組織
 - 大連理工大学の既存学部より優秀な教員の移籍
 - 世界に向けて、教員公募を着手
- 日本スタイルの卒業研究の現地化
 - 日本の卒業研究の基本スタイルを維持しながら、中国の進学、就職事情に合致する卒業研究の開発
- 連携強化
 - 企業との連携
 - 大連の日本人社会との連携
 - 大学間の共同研究の推進(共同ラボ)

ご清聴ありがとうございました！

